

2012年4月(1号)

博物館学校地域連携教育支援事業とは

○ 事業の目的

山口県立山口博物館には、天文・地学・植物・動物・考古・歴史・理工の7部門があり、33万点にも及ぶ学術資料を収蔵しています。また、それぞれの部門に専門的な知識と技能をもった学芸員がいます。

「博物館学校地域連携教育事業」は、これらの人的・物的な教育資源を活用しながら、博物館と学校・地域が連携・協力し、子どもたちの教育を支援していくことが主な目的です。

詳しくは、山口博物館のホームページ(博物館 For School)をご覧ください。

MT (ミュージアムティーチャー) とは

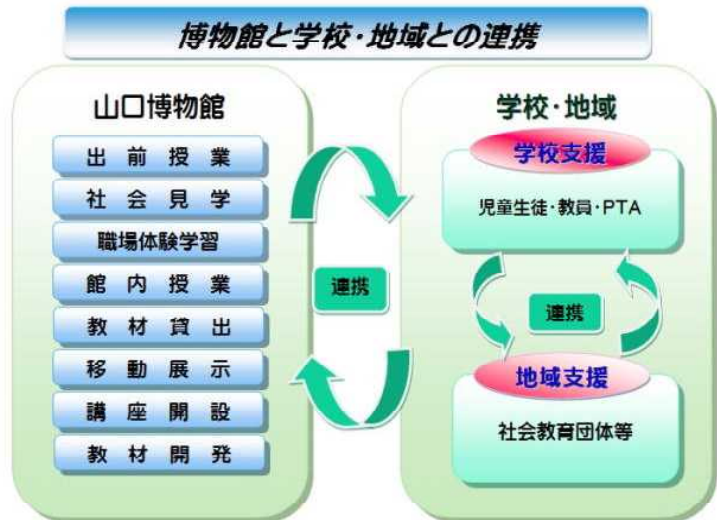
「博物館学校地域連携事業」を推進するために博物館へ派遣される教員をMT (ミュージアムティーチャー)と呼んでいます。MTは出前授業を中心に次のような活動を行っています。

- ・ 出前授業や館内授業の実施
- ・ 社会見学や職場体験学習への対応
- ・ PTA活動、公民館や子供会等が行う教育活動支援
- ・ 博物館の持っている教育資源を活用した教材や学習プログラム開発
- ・ 博物館日より、Webページ、リーフレットの配付等による広報活動

私たち3人が担当します。



(左から 河野、中川、角田 です。)



平成23年度利用状況(延べ)

- 出前授業 298団体
- 社会見学 118団体
- 職場体験 14団体
- 館内授業 5団体
- 教員・地域支援 2団体

☆自然教室の事前学習に、日曜参観日に、地域行事に、お電話ください。

083-922-0294 (博学担当へ)

4月・5月・6月の行事案内

- 4月27日（金）～5月27日（日）テーマ展：ホネホネ展
- 4月29日（日）アストロトーク：日食と金星の太陽面通過を見るために
- 5月13日（日）春の昆虫教室
- 5月21日（月）日食を見る会
- 6月6日（水）金星の太陽面通過を見る会
- 6月10日（日）チャレンジ！ロボットプログラミング（第1回）
地質めぐり（第1回）・・・萩市須佐方面

※詳しくは各学校に配付しております「2012年度 行事案内」をご覧ください。

日食（部分日食）の観察について

5月21日（月）の早朝に九州地方南部から関東地方付近の帯状の範囲では金環日食が見られます。この金環日食は日本では25年ぶりの現象ですが、残念ながら山口県では部分日食となっています。

食の最大が7時30分頃となり、児童生徒の登校時間と重なります。交通事故や太陽を直接見るなど、危険が予測されますので、安全の確保について、保護者への周知、児童生徒への指導が必要です。日食観察の注意事項などについて、ご不明な点や質問がありましたら、気軽に博物館へお電話をください。

太陽を直接見てはいけません！！

安全な方法で日食を観察しましょう！



日食を安全に観察する方法は、国立天文台や2012年金環日食日本委員会のホームページ等で詳しく紹介されています。日食の観察を通して自然や科学への関心を高めるきっかけとしてほしいものです。

←（イラスト）

日食の観察方法（例）

①ピンホールの原理で紙に映った太陽を観察する

太陽を直接見ることのない安全な方法です。厚紙にあけた小さな穴を通した太陽の光を白い紙に投影して観察する方法です。木漏れ日では、葉の隙間が小さな穴（ピンホール）の役目をし、同じような現象を観察することができます。

②鏡で壁に投影した太陽の形を観察する

小さな鏡で太陽の光を反射させ、壁などに投影する方法です。この方法も①のピンホールの原理を利用したものです。投影する壁までの距離が、鏡の大きさの100～200倍程度ならば、太陽の形がわかりやすくなります。

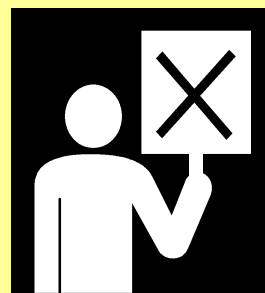
③日食観察用グラスを使う

簡単に日食を観察できる方法ですが、注意も必要となります。食の始まりから、終わりまでの時間は長時間となります。ときどき目を休め、太陽を見続けることはさけてください。雲が出ているときは、ついグラスをはずして観察したくなってしまいますが、急に雲間から光がさしてくるなど、危険なので注意が必要です。その他、グラスに添付している注意事項をよく確認してください。

日食を観察するときは、十分注意してください。誤った方法で見ると目を傷めたり失明したりするおそれがあります！！

危険な観察方法の例

- 望遠鏡や双眼鏡で直接太陽を観察する。
- 直接肉眼で太陽を観察する。
- CDや色つきの下敷きを使って観察する。
- すずをぬったガラスを使って観察する。
- レジャー用のサングラスで観察する。
- 写真用のフィルム（感光したもの）で観察する。
- カメラ用減光フィルターを使って観察する。
- 日食観察用グラスを望遠鏡や双眼鏡と組み合わせて使用する。



詳しくは

- 国立天文台ホームページ「2012年5月21日 金環日食 観察方法」
<http://naojcamp.mtk.nao.ac.jp/phenomena/20120521/obs.html>
- 日本眼科学会ホームページ「2012.5.21 金環日食 関連情報」
<http://www.nichigan.or.jp/sun/index.jsp>

をご参照ください